

【論考】

COVID-19 前後における米国でのオンライン教育

-留学生への課題と機会-

Online Education at U.S. Universities, Before and After COVID 19:
The Challenges and Opportunities for International Students

テキサス工科大学 リチャード ポーター

Richard Porter, Ed.D.

(Director of International Student and Scholar Services
Office of International Affairs, Texas Tech University)

キーワード：COVID-19、アメリカ、オンライン教育、留学支援

アメリカにおけるオンライン教育は、過去 20 年の間に劇的に増えています。私の執筆した以前の原稿 (Porter, 2020a) で述べたように、2016 年にオンラインラーニングコンソーシアムが主催した調査 (Seaman, Seaman, & Allen, 2020) によると、アメリカでオンライン教育に参加する学生の数は、14 年もの間増加し続けました。同時に、2012 年から 2016 年の間だけを見ても、対面式授業を受ける学生の総数が 100 万人以上 (6.4%) 減少しました。COVID-19 以前から、アメリカのほぼ全ての公立および私立の大学ではすでにオンライン教育が発達しており、現在ではその大多数がオンライン授業のみで取得できる学位プログラムを提供しています (United States Department of Education, 2020)。この傾向はパンデミックにより加速されており、オンライン教育において、世界全体の大きなスケールでの実験を余儀なくされています。

これらの全ての事柄は、現在アメリカに居住する留学生に直接的な影響を与えるでしょう。本稿では、パンデミック禍におけるオンライン教育への移行が、どのような類を見ない形で今の留学生に影響を及ぼしているのか、また、今後アメリカの大学で学位を取得しようとする学生が留学を決意するにあたってどのように影響するかについて述べたいと思います。また、オンライン授業と学位プログラムのメリット・デメリットや、多種多様なオンラインプログラムと教育機関の中からオンラインプログラムを選択する際に、学生が検討する必要のある様々な要素についても述べます。

パンデミック禍における留学生とオンライン授業

アメリカに居住する留学生は、アメリカの法律により、各学期に定められた単位分のオンラインコースしか受講することができません。大学の学部留学生は、フルタイムの学生とみなされるためには少なくとも12単位を取ることが必要ですが、オンライン授業で利用できるのは、そのうち3単位だけです。そのため、もし全学期間中にオンラインで6単位、対面式授業で6単位を取得した場合には、アメリカでは留学生としての法的地位を失うこととなります。大学院生の場合は、必要な9単位のうちオンラインで取得できるのは3単位以内です。この法律は、セキュリティ上の懸念に対処することを目的としています。アメリカ政府は、留学生が留学を目的として滞在しており、それ以外の理由での滞在ではないことを保証するため、キャンパス内にいる必要があるとしました。この法律は、パンデミックによってほとんどのアメリカの大学で対面式授業が中止されたため、春に免除されました。

春と夏の間に、すでにアメリカの多くの大学では、秋にはオンライン授業のみを実施することを決定していました。その他の大学では、学期を閉鎖することはせずにオンライン授業を増やして対面式授業を減らすことにしました。秋が近づくとつれても、留学生に対して規制上限を超えるオンライン授業の受講が許可されるかについて、政府から大学へは何の保証もありませんでした。そのためオンライン授業への移行が留学生にとって問題となりえるのかどうか、彼らのアメリカにおける法的な位置づけにどのような影響を与えるのかどうか定かではありませんでした。

2020年7月9日になって、アメリカ政府は、留学生がアメリカに合法的に滞在する間、大半の授業をオンラインで受講しても良いとして春に導入した免除措置に関して、解除をするという最終規定を発表しました。最終規定によると、アメリカ在住の留学生は秋学期に限られた数のオンライン授業を取るか、そうでない場合には新学期が始まる前にアメリカを出国しなければならないとのことでした。同日、ハーバード大学は秋学期には対面式授業を実施しないと発表しました。その当時、アメリカには100万人を超える留学生がいました。この最終規定のもと、アメリカの大学に在籍していた大多数の留学生は、秋学期が始まる前に出国しなければ、不法滞在と見なされることになったのです。政府の発表と最終規定への反応は素早く劇的でした。全ての主たる高等教育機関は政府代表に大声をあげ抗議し、ハーバード大学や東海岸にあるその他の大きな学校を含む多くの学校が団結し、連邦政府を告訴しました。

その2週間後には、アメリカ政府はこの新しい規定の撤回に合意することになりました。秋にオンライン授業を受講する留学生は、ハーバード大学のようなオンラインのみを扱うプログラムに登録していたとしても、2021年の春までアメリカに合法的に滞在することができるようになりました。しかしながら、新規の留学生がオンライン授業のみの学校へ入学しようとする場合には、アメリカへの入国は許可されません。秋学期にオンラインと対面式の混合型の授業をすることを決定していたテキサス州のほとんどの大学にあっては、秋学期に新規の留学生を受け入れることができます。対面式授業

のある大学の留学生については、いくつかの対面式授業を受講する限り、上限以上のオンライン授業を受講することを許可されています。

このパンデミックの後、そしてその将来にかけても、アメリカの教育機関におけるオンライン教育への移行は、現役留学生とこれからの留学生に対して、選択とジレンマを与えることになるでしょう。ジレンマについては、アメリカの教育機関が提供するオンライン授業数の増加と、留学生が受講できるオンライン授業数への制限によって引き起こされるでしょう。選択については、オンライン授業が利用可能になることで、学位取得のためアメリカへの渡航を目指すのか、もしくは自宅からオンラインで学位を取得するのを選択する機会がますます増えるということです。このことはパンデミック以前からすでにアメリカで行われている英会話プログラムに影響を与えており、学位取得のため渡米を選択した学生の決断にも今後影響を与えることになるでしょう。

アメリカにおける英語学習プログラム参加への急激な減少

オンライン授業への移行は、アメリカで英会話トレーニングを受けた留学生の中ですでに起こっています。アメリカで英語プログラムを受講する留学生の数は、過去5年間だけを見ても劇的に減少しています。米国国際教育研究所のオーブンドア報告書の推計によると、アメリカで英語を勉強する学生の数は2015年の133,335人から2019年には75,379人に減少しました(Institute for International Education, 2020)。この劇的な減少の理由の一部には、英会話学習がオンラインで可能になっていることがあります(Benshoff, 2018; Civinini, 2019; Redden, 2019; Viggo, 2020)。現在起こっているパンデミックも、学位取得を目指す留学生に同じ影響を与えるかもしれません。筆者の予想では、自宅からオンラインでアメリカの学位を取得しようとする学生は増加するでしょう。国を行き来するリスク、ますます難しくなるアメリカのビザ取得とかさむ取得費用、安全に関する心配や個人がアメリカで学位取得するのに必要な高いコストは、オンライン化の傾向の他の要因と言えるでしょう。

COVID-19 以前の留学生とオンラインプログラム

これまで、オンライン教育プログラムは留学生に特に人気があるものではありませんでした。過去10年間、アメリカの大学ではオンラインプログラムが急激に成長する一方、留学生に向けての促進や登録に関しては成功しているとは言えませんでした。国立教育統計センター(United State Department of Education, 2020)の最新データによると、2015~16年にはアメリカに住む留学生の35%が少なくとも1つのオンライン授業を受講していました。アメリカの大学ではオンラインで提供されるコースが増えているため、上述の留学生の中には、オンラインコースを選ぶ他に選択の余地がなかった学生もいたかもしれません。オンライン授業のみのプログラムに登録した留学生はたった6%ほどでした(Durrani, 2020)。移民ではない留学生は、アメリカに滞在しながらオンラインのみのプログラムに

参加することが認められていないため、この6%の学生はアメリカ国外からのプログラム参加者でした。そのため、少なくとも2020年までは、アメリカの大学のプログラムに参加する94%の留学生が対面式授業を受けていました。この調査は「留学生」の定義を示していないため、オンラインのみの留学生数は6%より低い可能性もあります。US ニュース&ワールド・レポートの年次調査によると、2016-2017年に150程のランク付けされたオンラインの学士号プログラムに登録した留学生はたった8,524人であったとのこと。これは、アメリカの教育機関で現在勉強している100万人以上の留学生の中では少ない割合です（IIE, 2020）。この数は、留学生がオンラインで勉強をするメリットを発見していく中で、COVID-19とその他多くの要因によりこの先10年程の間にこの数は増加していく傾向にあるでしょう。

留学生にとってのオンラインプログラムのメリット

オンラインプログラムには多くの利点があり、それらの要素がアメリカの学生の中でのオンラインプログラムの受講を促進させる要因です。これらのメリットは留学生にも当てはまります。

柔軟性— オンラインプログラムは対面式と比べいくつもの点でより柔軟です。この柔軟性は、アメリカで学位を取得するために離職したりアメリカに引っ越すことができない学生に魅力的な特性となります。アメリカの大学に在籍する留学生はフルタイムで登録することが求められます。自国からオンラインプログラムに参加する学生は、パートタイムで学習することが可能であり、プログラムを休止することもできます。対面式授業が特定の時間と場所で実施される中、オンライン授業はそうではありません。そのため、学生は自分のスケジュールに合わせて学習課題に費やす時間を決めることができます。この柔軟性により日本にいる学生はアメリカの学位取得を目指しながら働き続けることが可能となり、学習課題を夕方や週末に行うことができます。オンライン学習の特性はまた、授業を1つ受講してみてプログラムを調べる機会があるということです。それにより、この投資が価値のあるものか否かということ、アメリカに引っ越してきてフルタイムのプログラムに取り組む前に知ることができるのです。

復習と繰り返し— 対面式授業では、学生はリアルタイムの講義を通して、情報を得る機会が1度だけしか与えられません。オンラインクラスでは、録音された講義などを含め、授業内容を学生が望むだけ何度でも復習することができます。これは、リアルタイムで講義を聞きながらノートを取ることが極めて難しいと感じる第二か国語を学習する学生にとって非常に助かります。

費用— アメリカ人学生と留学生の両者が抱える心配事には、アメリカの大学費用の劇的な増加があります（Porter, 2020b）。アメリカのほとんどの家庭では学士号の費用を支払うことができず、結果的に学生の負債は手の付けられない額になります（Eyer mann, 2019）。留学生がアメリカの公立大学に通うための学費は州外学費が適用されるため、多くの場合、少なくともアメリカ人学生の学

費の2倍の金額を支払うこととなります。オンラインプログラムは費用にばらつきがありますが、テキサス工科大学 (TTU) のような公立大学のオンラインプログラムの多くは州内学費と同等の学費や手数料です。もし留学生が奨学金なしにキャンパスで勉強をしようとする、TTU では州外の学費を支払うことになり、その額は州内の学費の2倍の金額となります。費用は教育機関により異なりますが、一般的に、オンラインプログラムに参加する留学生は対面式のプログラムよりも低い額で済むでしょう。

学生は自宅からオンラインで受講できるため、自分が選んだ大学の所在地での生活費に関係なくアメリカのプログラムを検討することができます。一例を言うと、多くの一流大学が所在するボストンのような街に住むための費用はとても高いです。オンライン学生はボストンでの生活費を支払う必要がないので、ボストンにある大学のプログラムにより手を伸ばしやすくなります。そのため、オンラインプログラムへの参加は、キャンパス内のプログラムに通う学生が利用できないような選択肢を与えてくれるのです。

アメリカのコミュニティカレッジ (以下「CC」という。) もまたオンラインプログラムを提供しています。もしアメリカの4年制大学に通う金銭的余裕がないのであれば、節約するためのもう1つの方法として、最初の2年間はオンラインでコミュニティカレッジに通うことです。CCでのオンラインプログラムは大学のそれよりも随分少ない費用で済みます。日本の学生が、4年間のプログラムをCCのオンラインコースから始めるとします。必須の一般教養課程を2年間で終えてCCで短期大学士 (Associate's degree) を取得した後は、残りの2年の課程を大学で修了することができます (オンラインでも対面式でも)。この学士号に向けてのオンラインの道は、アメリカの学位取得のための費用をかなり軽減させるでしょう (Friedman, 2020)。

オンラインプログラムのデメリット

パンデミック以前、アメリカ国外からオンラインプログラムに登録していた留学生がほとんどいなかったことには理由があり、それには以下の要因が含まれます。

自己責任 (アカウントビリティ) の不足— 様々な理由で、オンライン学位プログラムにおける学生は、キャンパス内で対面式プログラムを受講する学生よりも高い率で不合格やドロップアウトになっています。同じ教育機関の対面式授業を受ける学生とオンライン授業の学生の結果を比較すると、対面授業を受ける学生より、オンライン学生が39%高い確率 (64%対46%) でドロップアウトを経験しています (Protopsaltis & Baum, 2019)。この理由の1つは、改善されつつあるとはいえ、オンラインプログラムでは、自己責任の不足や対面での交流が少ないからです (Bettinger, Fox, Loeb, Taylor, 2017)。留学生はアメリカ人学生と同様に、オンラインプログラムで成功するためにセルフモチベーションを高く保たなければなりません。

オンラインによる注意力の散漫— 対面式とオンラインの学生を比較した研究によると、オンライン授業を受ける学生は、マルチタスクをする傾向がはるかに多くありました(Lepp, Barkley, Karpinsk & Singh, 2019)。インターネット上には、学校の課題と関係のないことがたくさんあり、オンライン学生は一般的な対面式授業を受ける学生よりも、このような誘惑で集中力が散漫しやすいのです。

アメリカでの雇用とオンライン学位プログラム— アメリカで対面式授業により学位取得を目指す留学生が学位を取得した後、学んだ分野に関連した実務経験を積むために最低12か月働く機会を与えられます。多くの留学生がアメリカで学位取得を目指す主な理由の1つは、卒業後、就労のための資格証明を得られることです。多くの留学生が学位を取得し働いて、現在は永住者又は米国民となっています。就労のためアメリカに残る計画のない学生にとっても、母国に帰国する前にアメリカで就労経験を得る絶好の機会です。上記のことは、たとえ同じ教育機関で取得した学位だとしても、オンラインで学位を取得する学生には難しいため、もし学位取得後にアメリカで働くことが目標である場合には、オンラインプログラムは一般的には良い選択とは言えません。

多大な時間を必要とするオンラインプログラム— 一般的に、オンラインコースでは依然として多くの課題が課せられています。オンラインコースは本格的に、対面式コースより易しいということではなく、留学生にもアメリカ人学生にも、場合によってはより難しく困難であるかもしれません(Stern, 2004; Kung, 2017:)。学生は、受講しているそれぞれのオンライン授業に対して毎週多くの時間を費やすことを覚悟しなければなりません。その一方、オンライン学生は各教室に直接足を運び対面式授業に何時間も参加しなくても良いため、時間を節約することもできます。

認証評価の不足と低い質— 全てのオンラインプログラムが正規又は認可コースではないことに注意が必要です。オンライン学位プログラムを提供する教育機関は多種多様であり、自分が検討している教育機関を慎重に見て、プログラムに登録する前に認証評価やプログラムの質に関する重要な質問に返答をもらう必要があります(Ross, 2018)。

アメリカにおける様々な種類のオンラインプログラム

オンラインプログラムを提供する大学は多種多様です。各州の大規模な公立学校の全てでオンラインプログラムを提供しており、またアメリカ中のほとんどの一流私立学校でも様々なオンラインプログラムを提供しています。また、オンライン専用の営利学校も存在します。他にも、ユニバーシティ・オブ・ザ・ピープル¹のような、世界中の人々に向けた、あまり高額でない費用の学位プログラムを提供する新しい(アメリカに基盤をおかない)オンライン専用の非営利学校もいくつかあります。それから、コーセラ²(Coursera)、エデックス³(Edx)やユダシティ⁴(Udacity)のようなオンライン教育

¹ <https://www.uopeople.edu/>

² <https://www.coursera.org/>

機関もあります。これら3つの機関は、大規模なオープンオンラインコース（MOOCs）を非常に低コストであるいは無料で提供しています。これらのプラットフォームにおけるコースやプログラムの多くは、MIT やスタンフォード、ミシガン大学の教授らによって教えられています。

いくつかのオンラインプログラムは、1 世紀以上にわたり運営されている学校から提供されています。コーセラのようなプログラムは、つい2012年に創設されたばかりです。コーセラでは、工学、データサイエンス、機械学習、数学、ビジネス、ファイナンス、コンピュータサイエンス、デジタルマーケティング、人文科学、医学、生物学、社会科学等の分野のプロフェッショナルコース、学位、専門科目を提供します。

もし仮に、コーセラを通してカリフォルニア大学サンディエゴ校の提供するビッグデータ専門分野プログラムに登録する場合、費用はたった399ドルです。インベストペディア（Investopedia）によると、コーセラの学習者は2017年の2,600万人から2019年には4,000万人に増加しました。これによりコーセラは、2026年までには全世界で429億7,000万ドルから654億8,000万ドルの市場価値になると見積もられているオンライン教育マーケットで最大の提供者となりました。

何年もの間、専門家は、昔、新たに開発された技術が他の産業を破滅させたように、コーセラ、ユダシティやエデックスのようなMOOCsがキャンパス内でのプログラムを消滅させるだろうと予想していました。ハーバードビジネスレビューの中で、エリック ヘルweg氏は「Eight Brilliant Minds on the Future of Online Education」と題する記事の中で、オンライン教育への移行に関して自身が参加した会議について書きました（Hellweg, 2013）。記事の中で、彼は基調講演者でハーバード大学前学長のラリー・サマー博士を引用しています。「オンライン教育への移行を考えると、この賢明な引用を覚えておくことが重要です：“物事は我々が思っているよりも起こるまでに時間がかかり、思っているほどよりも急速に起こる。” サマー博士の言った移行は、現時点では起こっていません。大きな宿泊設備付きの大学は生き残っていますが、現在の危機がこの変化をもたらすかもしれません。

オンラインプログラムをどう評価するか

オンラインのオプションは、アメリカ人学生も留学生も混乱させる可能性があります。良い大学には多くの評判が高く質の良いオンラインプログラムがありますが、中には投資する価値のない搾取的な質の低いプログラムも多く存在します。そのため、生活の向上やキャリアアップに繋がらないプログラムのために時間と大切な資源を無駄にしてしまうことを避けるために、検討しているプログラムを注意深く見る必要があります。本稿では、様々なプログラムに関する詳細な議論はできませんので、オンライン学位プログラムを検討している学生に向けた一般的なガイドラインを紹介します。下記は、

³ <https://www.edx.org/>

⁴ <https://www.udacity.com/>

オンラインプログラムを評価するときに学生が問うものとして様々なウェブサイトが提案しているいくつかの質問の一覧です (Online Degree Database, 2020: Ross, 2018)。

このプログラムは認定されているか？— 留学生は検討しているオンラインプログラムの実績を確認することに注意すべきです。アメリカでは、オンラインプログラムに公式の評価（認証評価）とランキングがつけられています。これは、特定のプログラムの正当性を判断するのに重要な情報です。失敗を避けるために、まずは対面式プログラムの認証評価とランキングを基に学校を選ぶことをお勧めします。それから、その学校は自身が興味のあるプログラムと同じものをオンラインバージョンでも提供しているのか、また留学生でも低い費用で受講できるのかを調べると良いでしょう。

教職員との関わりはどうか？— 一般的に、オンラインプログラムは対面式授業よりも個人的な関わりが少ないことがあげられます。しかし、大規模な対面式授業はさらに関わりが少ないこともあり、教員と交流する機会が減ります。オンラインプログラムを検討している場合、オンライン担当教員とどのくらい関わりを持てるかを調べるのが大切です。バーチャルで学生からの質問や相談を受ける時間を設けているのでしょうか？どのくらいの頻度で宿題や課題のフィードバックをくれるのでしょうか？メッセージやメールによく返事をしてくれるのでしょうか？学校でのオンラインクラスにおける学生・教員間での交流に関する方針は何なのでしょう？

どのようなサポートサービスが利用可能なのか？— サポートサービスは留学生にとって特に重要です。異なる言語でコースを受講する上で学生が直面する可能性のある課題を考えると、オンラインコースのサポートプログラムがクラスの成功又は失敗を左右するでしょう。書いた論文を確認したり補助してくれるライティングセンターはあるのでしょうか？プログラムにはコース内容の副教材はありますか？アメリカ国外にいる学生への技術サポートはどのくらい良いものなのでしょう？

授業料と手数料はいくら？— それぞれのオンラインプログラムの授業料は、とても簡単に見つけ出すことができます。手数料も同じように重要ですが、初めは隠されていることがあります。決断を下す前に、プログラムに係る全費用の明確なリストを得るべきです。アメリカでは、プログラム固有の手数料がかかることがよくあるため、手数料が（オンラインも対面式も）、初めは除外されている可能性が高いのです。

アメリカと自国でどうネットワークを構築するのか？— オンラインプログラムの明らかなデメリットの1つは、人との出会いや将来有益になり得る関係構築の機会が不足していることです。学生は、このデメリットをオンラインプログラムがどう補うのかを調べた方が良いでしょう。例えば、学生の母国で学校の同窓会があるのか？オンライン環境の中で学生同士、どのような交流が行われているのでしょうか？同期生と知り合い、将来のキャリアに助けになり得る繋がりを持つことが可能でしょうか？

雇用者に認識され尊重される学位であるか？— 学生は、プログラム卒業生に関する雇用記録につ

いての詳細を聞いた方が良いでしょう。また、対面式による学位プログラムと比較したとき、その学校とオンラインプログラムが雇用者にどう認識されるのか検討したいと思うはずで。そのオンラインプログラムが名の知れたアメリカの学校で提供されているのなら、雇用者がオンライン学位の価値を減じるリスクは減るでしょう。

国際的に受け入れられている学位であるか？— 求めている学位が自国や国際的にどう評価されるのかについて考えることは重要です。学位を要する政府や民間部門の業務に応募する際、その学位が就職候補の企業や政府機関から適正であると思われるのでしょうか？

入学基準— オンラインプログラムへの入学の過程は、ほとんどの学校ではキャンパス内プログラムのそれと同様のものです。いくつかの学校では基準がより高いかもしれません。2016年7月から2017年6月までにオンライン学士号プログラムへの入学が認められた志願者の平均人数は、キャンパス内の学士号プログラムの平均受け入れ率よりわずか2.4%高いポイントでした(Friedman, 2018)。学生は、低い入学基準を設けている学校に対し慎重である必要があります。なぜならそれは、プログラムの水準が低かったり、学位の価値も疑わしいかもしれないからです。ランク付けされたオンラインプログラムの入学基準では、同じ大学で、対面式学位プログラムへの入学必要条件と似ているかほぼ同等です。

結論

今回の危機に至るまで、アメリカの大学はすでに多くの困難に直面しました。その多くについては以前執筆した原稿で説明しています(Porter, 2020b)。ハーバードビジネスレビューの記事によれば、現在の危機が大学に対し経営モデルの根本について再考を強いるだろうと述べています。これによって、講義スタイルの授業や4年間の寮での居住経験などの伝統からの移行に刺激が与えられることになるでしょう(Govindarajan, Srivatava, 2020)。アメリカの大学がオンラインに移行していく中で留学生に必要なことは、対面式授業で得られる学位の価値と、自宅からパートタイムかフルタイムでアメリカの学位取得を目指すメリット・デメリットについて、真剣に天秤にかけることです。今後数年間のうちに仕事がオンラインに移行していき(地理的境界を越えて)、より多くのアメリカの大学授業がオンラインになっていき(アメリカ在住の留学生が受講するクラスが取れなくなるかもしれず)、留学生を歓迎するというアメリカの気質が減少していく中で、今後多くの留学生がアメリカの学位取得のためオンラインという選択肢を選んでいくでしょう。

(編集部注：本稿は、原文の英文を編集部で和訳したものです。)

【参考文献】

Benshoff, L. (2018, May 16). With international student enrollment declining in the U.S., intensive

- English programs feel the pinch. Retrieved October 06, 2020, from <https://www.marketplace.org/2018/05/16/international-student-enrollment-declining-us-intensive-english-programs-feel/>
- Bettinger, E. P., Fox, L., Loeb, S., & Taylor, E. R. (2017). Virtual classrooms: How online college courses affect student success. *American Economic Review*, 107 (9):2855–2875.
- Civinini, C. (2019, June 13). U.S.: IEP numbers down 10%, but decline has started to “level” – IIE data. Retrieved October 06, 2020, from https://thepienews.com/news/iep-numbers-down-10/?mc_cid=842b0eb075
- Durrani, A. (2020, January 21). Why International Students Should Consider an Online U.S. College. Retrieved October 06, 2020, from <https://www.usnews.com/higher-education/online-education/articles/why-international-students-should-consider-online-colleges-in-the-us>
- Eyermann, C. (2019, February 21). Americans Are Drowning in Student Loans, New Household Debt Report Shows: Craig Eyermann. Retrieved October 06, 2020, from https://fee.org/articles/americans-are-drowning-in-student-loans-new-household-debt-report-shows/?gclid=CjwKCAjwq_D7BRADEiwAVMDdHk6fpTrQTgvH2pUIf3h55iyogagPz2cK9Lx9SLrrUbsvJRJEg8Rc-xxoGebQQAvD_BwE
- Friedman, J. (2020, May 14). A Guide to Earning an Online Associate Degree. Retrieved October 06, 2020, from <https://www.usnews.com/education/online-education/articles/a-guide-to-earning-an-online-associate-degree>
- Friedman, J. (2018, January 9). How Admissions Works at Online Bachelor’s Programs. Retrieved October 06, 2020, from <https://www.usnews.com/higher-education/online-education/articles/2018-01-09/how-admissions-works-at-online-bachelors-programs>
- Govindarajan, V., & Srivastava, A. (2020, March 31). What the Shift to Virtual Learning Could Mean for the Future of Higher Ed. Retrieved October 06, 2020, from <https://hbr.org/2020/03/what-the-shift-to-virtual-learning-could-mean-for-the-future-of-higher-ed>
- Hellweg, E. (2013, January 29). Eight Brilliant Minds on the Future of Online Education. Retrieved October 06, 2020, from <https://hbr.org/2013/01/eight-brilliant-minds-on-the-f>
- Institute for International Education (2020). IEP Student Enrollment Trend. *Open Doors Report*. Retrieved from <https://opendoorsdata.org/data/intensive-english-programs/iep-student-enrollment-trend/>
- Kung, M. (2017). Methods and strategies for working with international students learning Online in the U.S. *TechTrends*, 61(5), 479–485.
- Andrew Lepp, J. (2019, January 13). College Students’ Multitasking Behavior in Online Versus Face-to-Face Courses – Andrew Lepp, Jacob E. Barkley, Aryn C. Karpinski, Shweta Singh, 2019.

- Retrieved October 06, 2020, from
<https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/2158244018824505>
- Lepp, A. Barkley J. Kapinski, A. C. & Singh, S. (January 13, 2019). College Students' Multitasking Behavior in Online Versus Face-to-Face Courses. Retrieved October 06, 2020, from
<https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/2158244018824505>
- Porter, R. (2020a). COVID 19 and universities in the U. S. *Ryugakukoryu*, 112, 30–43. Retrieved October 06, 2020, from
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2020/_icsFiles/afieldfile/2020/07/08/202007richardporter.pdf
- Porter, R. (2020b). Helping Students Achieve their Dream of Earning a Degree in the U. S. by Overcoming the Perceived Risks and Barriers Insights from a U. S. International Educator. *Ryugakukoryu*, 110, 1–17. Retrieved October 06, 2020, from
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2020/_icsFiles/afieldfile/2020/04/24/202005richardporter_1.pdf
- Protopsaltis, S. & Baum, S. (January, 2019). Does online Education Live up to its Promise?: A Look at the Evidence and Implications for Federal Policy. Retrieved October 06, 2020, from
<https://mason.gmu.edu/~sprotops/OnlineEd.pdf>
- Redden, E. (May 31, 2019). Intensive English Enrollments Decline Again. Retrieved October 06, 2020, from
<https://www.insidehighered.com/quicktakes/2019/05/31/intensive-english-enrollments-decline-again>
- Ross, K. M. (January 11, 2018). 10 Questions to Ask About U. S. Online Bachelor' s Programs. Retrieved October 06, 2020, from
<https://www.usnews.com/higher-education/online-education/slideshows/10-questions-for-international-students-to-ask-about-online-bachelors-programs>
- Seaman, J., Seaman, J. E., & Allen, I. E. (2019). Grade increase: Tracking distance education in the United States. Babson Survey Research Group and co-sponsored by the Online Learning Consortium (Key Findings). Retrieved October 06, 2020, from
<https://onlinelearningconsortium.org/read/grade-increase-tracking-distance-education-united-states/>
- United States Department of Education (2018). Fast Facts –Distance Learning. Retrieved October 06, 2020, from <https://nces.ed.gov/fastfacts/display.asp?id=80>
- Viggo S. (August 21, 2020). US IEP Numbers Drop Further 3.5%, but Decline is “Stabilising.” Retrieved October 06, 2020, from
<https://thepienews.com/news/us-iep-numbers-drop-further-3-5-but-decline-is-stabilising/>